

年間第 20 主日 (マタイ 15:21-28)

婦人よ、あなたの信仰は立派だ



皆さんは、二つお願いされて、それを両方とも叶えてあげるのはとても難しい場合、どんな決断をしますか？お願いごとは、いつでも、いくつでも叶えてあげられるものではないと、誰もがよく知っているでしょう。

どちらの願いも叶えない。人間ですから、この決断もあり得ます。どちらにも不公平にならないからです。例えばふさわしいかわかりませんが、あるご主人が、一方で「お母さんの願いを叶えておくれ」と言われ、他方でお嫁さんから「私の願いを叶えてください」と言われ、どちらも叶えるのはとても難しいとしましょう。

もちろんどちらの願いも叶えてあげたいですが、両方はとても難しい。そこで、「どちらも叶えない」この決断はあり得ると思います。私は結婚生活者ではないので、例えば適切かはよくわかりませんよ。両方叶えるのがほぼ無理なら、両方に諦めてもらうというのは有りだと私は思います。

実は今週の朗読でイエス様は、そういう苦境に立たされているのではないのでしょうか。一方で「わたしは、イスラエルの家の失われた羊のところにしか遣わされていない」(15・24)と言われているのですが、今のところ、それは事実なのです。しかし目の前には、ユダヤ人から見て「異邦人(ユダヤ人以外の外国人)」であるカナンの女性が切なる願いを訴えています。母親が、わが子の苦しみを見ていられず、助けを仰いでいるのです。

イエス様は、本心では、両方助けたい、両方の願いを叶えたいのですが、カナンの女性の願いに応えることは、「子供たちのパンを取って小犬に与えること」(26節参照)になるのです。イエス様ですら、苦境に立たされるほど、悩ましい問題に直面していたのです。

しかし、カナンの女(女性)は自らの信仰によってそれを見事に切り抜けます。「主よ、ごもつともです。しかし、小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです。」(15・27) 食いしん坊の私は落ちたパン屑も拾って食べますが、この家庭では落ちたものは決して拾わないのでしょうか。落ちたパン屑は、もう誰のものでもなく、小犬と例えられたカナン人が恩恵を受けても問題なくなりました。

皆さんはここに、見えない一つの仕掛けが組み込まれていると思いませんか？つまりイエス様は、カナンの女性がイエス様の苦境を助けて差し上げることができるように、イエス様ご自身が「カナンの女にだけわかる」解決のヒントを出してくださった、ということです。「わたしは、イスラエルの家の失われた羊のところにしか遣わされていない」この言葉を繰り返すだけだったら、「主よ、どうかお助けください」という押し問答の繰り返しで、一向に解決できなかったと思うのです。

それは、私たちに対しても同じかもしれません。私たちはイエス様

の思いを理解するのに十分な知恵と理解を持ち合わせていませんが、イエス様は私たちが理解できるように、「私にだけわかるヒント」を与えてくださるのです。私にとって、「ああ、そうかそういうことか」と行動できるように助け舟を出してくださるのです。

過去のことを思い出しました。小教区で女性部の長を選挙で選ぶことになりました。ある方が公正な選挙で選ばれましたが、本人はどうしても引き受けないと言います。司祭館に結果の報告に上がってきて、「私は理由があって、どうしても引き受けられません」と言います。隣には、副に選ばれた人がいて、その人も困った顔をしています。それこそ主任司祭の私と押し問答です。「選ばれたんでしょ。引き受けたら？」「引き受けられない事情があります」

内心「めんどくさいなあ」と思ったのですが、決断を下しました。「じゃあこうしましょう。選ばれた責任を果たすため、一年間だけ長をなさいます。一年後、わたしが必ず職を解きますから。」これには副に選ばれていた方もびっくりしていました。すると女性部長に選ばれた人は「わかりました」と言って司祭館を出て家に帰りました。その後どうなったと思いますか？

私は本気で一年後に職を解くつもりだったのですが、ご本人は私との約束を忘れてしまったのか、二年二期、四年間女性部長を務めました。私も面倒なことに巻き込まれずに済んだのですが、振り返ってみると、あれは私の発案ではなく、二つを同時に叶えられない苦境に立たされた中田神父に、イエス様が「私にだけわかるヒント」をそっと教えてくれたのだと思っています。

私たちの力では解けない問題、叶えられない願いを解決するために、イエス様だけはその方法を知っておられます。いつどんなときでも助け舟を出してくださるイエス様に、必要な力を願いましょう。

年間第 21 主日(マタイ 16:13-20)